

きっかけを生かす

総合リハビリテーション学会

学会長 高 見 正 利

学生の皆さんは、これから人生に対してますます深く、多種多様な興味を感じるようになります。単に個人的な関心ごとは年を経るとともに減っていくのが普通ですが、人間性を高貴なものにしたいという欲求は増えていくものです。人生を何倍も価値あるものにするからです。それを進めるには何が必要でしょうか。専門知識を学ぶだけでなく、それを深め、正しく利用することを考える、思考力です。知識を頭に単に詰め込むだけでなく、ものごとの原理を追求して、包括的にみたり関係づけたりする、考える力です。これがないと他人の単なる道具になってしまうでしょう。

しかし、自分で考えろ、と強く求められれば反撥してしまうのが人間です。それよりも、自ら考えることに気が付く機会が必要かと思います。先生たちが自由に意見を述べ合って学生がそれを聴き参加していく自由な雰囲気も好ましい機会でしょう。意見の相違は害悪でなくためになることがあるので他者の意見にも心を開く精神が育ちます。さらに、それを自分の頭の中でまねて行う、つまり他者として自分を置きそれに対して意見のやり取りをすると、それは自分で考えているということになるでしょう。

そういえば私事で恐縮ですが、私が若いころ居た長野にある「善光寺」というお寺を思い出しました。そこには銅像の牛がたくさんあり「牛に引かれて善光寺参り」という説話が残されています。昔、干している布を牛が引っかけて逃げていくのを取り返そうと追いかけて、強い物欲のために善光寺にまで来てしまった老婆が、そこで目覚めて信心深くなった、というお話です。偶然の出来事や他人の誘いによって良いほうに導かれることがあるというたとえです。この学術集会への参加もきっかけになるかもしれませんので、いろんな機会を大事にしましょう。なお、その本堂の床下に光が入らない暗闇の回廊があり、中ほどにかかっている錠前に触ればハッピーになると言われています。心を静め神経を集中して歩かないと錠前に気がつきません。何かを暗示していると思いませんか？